

# 童

2015年2月27日。

雪解けがどんどん進み、大地の白い世界から、白黒のまだら模様のそれへと変化の著しい日々がやってきました。「オオイヌノブグリが咲いていたよ」「ふきのとうが出ていたよ」という子どもたちからの春の連絡や、大地のヤカちゃんやすてきな3人組の案山子の前にクロッカスの可愛い芽が出てきているのを見聞きするにつけ、ようやく春がきたという実感を味わっています。今年は、これでもかと言う位のどっさりした雪がまとまって降ったので、その意味では苦しい冬でした。

個人的には、例の大けがした後のそのままの冬突入でしたが、顔の麻痺さえ気にしなかったら（最大の治療は、気にしない事だと言われているので）体力気力は以前のようになったので、スキーやスノーボードも子どもたちとのスノーシューやスキーも十分楽しめる幸せを味わう事ができました。これほどまでに回復できたのも、一番は、前に向かう子どもたちのエネルギーのお蔭だと思っています。その意味で、この仕事、この世界に感謝です。

いよいよ、1年のけじめを迎える3月がやって来ます。2月中旬までは、まだ春は遠い感じでしたが、3月の声を聴けば、やはり例年通り、同じように春がやってきています。大人のセンチメンタル気分を別の所に置いておけば、子どもたちにとっては、一番の飛躍するエネルギー溢れる季節です。背中を十分押して躍動感にあふれる時を過ごしてもらいたいと願います。

個人的にも、暖かいぼかぼかの春の風を、自分の顔いっぱい浴びさせて、顔の麻痺を和らげたいと思います。そして、前葉4本も、順調にいけば、ゴールデンウィーク前にも入る予定です。芽吹きの新葉が出るシーズンに青ちゃんの新歯も出てきます!?



## 【素敵な大人たち】

先日行われた、雄飛のインドネパール報告会。病院から帰り遅れて参加すると、何か素敵な気配と雰囲気を感じました。やはり「園長夫妻」がいるではありませんか。ネパール人でもインド人でも仙人とでも見える通称「園長」。髪を後ろで縛り、長いひげを垂らし、細いバンダナをいつも巻き、汚い服や長靴を履いていると自分で言いながら、使い込んだモンベルや一流山岳グッズを普段着として洗い汚れて着こなししている人物。どう見ても、ヒッピーとしか思えない人物。いつも酒を飲んでいるような感じで陽気（実際は飲んでいる時に会う方が多い）な人物。通称飯綱の主。

ピノキオ分教場という所で（もちろん自分で家やログハウスを作り）、子ども達の自然野外教室を長野でたぶん一番先に始めた先駆的な人で、現在は、その子どもたちが大きくなったので、その大人たち向けの酒飲み自然野外芸術教室（! ?）のようなものを行っている。正式には ロッジピノキオという宿泊施設オーナーである。

よって、その人生そのものが、原体験が全てなので、その話は、とても面白い。今回の話から、抜粋すると。

①結婚は40過ぎか。奥さんとの新婚旅行は、所持金17円で、車で日本一周。もちろん、金がないので、先々でアルバイトをしたり、警察にお金を借りたり。長野ナンバーの車なので、長野出身の現地の大学の先生に声を掛けられ、その縁で1万円を借りる。もちろん、現地でアルバイト先（カヌー製作所）を紹介してもらい、その仕事をして、お金を返す。それから、20年後、長野市のギャラリーにふらっと行くと、そこの主催者が、当時のその大学の先生と同僚だったことがわかり、連絡して当時を思い返したこと。（もちろん、カヌー製作は現在でもできる）

②夏に子どもたちを連れて、戸隠を歩き、川を見つけたので、着の身着のまま一緒に泳いでいたら、近所の人たちが何しているんだと集まってきたこと。そして、道端で、豆腐のパックを一人ずつ開いて、醤油をかけて、皆うまそうに食べていたら、これまた、道行く人が驚いていた ことなどのエピソード多数。

③インドネパール報告会に参加していた女性の方は、園長を見て驚いた。自分の息子（35歳）が、園長の野外教室でお世話になっていたらしい。その息子が、初めて園長の所へ行って帰って来た第1声「自分でやらないと、何も食べられなかった」と。

④破天荒な人生だけに、色々な本や雑誌で紹介されているらしい。先に書いたように、ヒッピー風の風貌で、東京の満員電車に乗っていたら、隣に立つやくざ風の本を読んでいる男と擦れ合い、迷惑そうにされた。その時、電車が揺れ、その男の本のページが目に入った。そこには、自分の名前が書いてあったので、いきなり「これ、僕ですよ」と言い、それから、一緒に飲んで泊まり歩いた。その男は、映画監督だったらしい。名前だけ記憶にあり、それから、2、30年後。ロッジに泊まったお客さんが、電話で「〇〇監督、今、ピノキオに泊まっている」という会話を、奥さんが耳にした。もしかすると、その当時の男性かと確認すると、もちろん当たり。そして、まもなく、最新の上映会が、ピノキオであるらしい。（沖縄のスピリチャルな島のドキュメンタリーらしい）

⑤テレマークやスキーが好きで、40過ぎての出来事。雪が積もった電車の線路の上を滑ったら面白いと考え、電車の時刻を調べて、電車の来ない時間帯に黒姫駅あたりから長野方面へ向かって線路を滑ったこと。もちろん、途中で電車が来るので、線路横でスキー姿で臥せっていると、皆驚いていたこと。まさにスタンドバイミーの雪上版。そして、民家の軒先などをいきなり歩き、洗濯を干している人たちに驚かれ、そして、牟礼駅まで着いた事。

⑥新聞配達を20年以上続けている。青ちゃんの子も新聞配達をしていただけに、「あれは、大変な仕事ですね」というと「物は考えよう」と答えた。「朝の静けさと神秘さを満喫できる。美しい夜明けを体験できる。朝の人との出会い。そして、健康に好い。毎朝、大座法師池にむかい、手を合わせ感謝している」と笑顔と時折神秘的な表情を浮かべてしゃべった。これが、園長の魅力である。

⑦ロッジピノキオは、大人の宿泊酒場としても大人気で、食事は、園長自らが、飯綱黒姫などの山に入り、山菜を採ってきて料理し、自慢の手打ちそばを打ち、客と一緒に飲み明かすスタイルらしい。その客層は、芸術家 映画監督 ミュージシャン 大学教授 等等 ユニークな人たちが集まるらしい。「俺の所へ来ると、皆 人生が狂うらしい」と言っていた。

前回の童で「知りすぎる事 便利すぎる事、情報化は、人間としての感動を失ってしまう」と書きました。①や④で、もし園長が携帯電話で、その場でM/TDを交換していたら、こんなシンクロの話は語れなかったでしょうし、私達も聞けなかった。とにかく、IT ハイテク パソコンなどの話は全くなく、全てが 自然ベースの原体験のエピソードだけ。まるで、大人にしてみれば、岩波少年文庫の物語や絵本を読んでもらっている気分。園長の横に座って、その物語を聞いているだけで幸せ。そんな素敵なめっちゃくちゃな園長の横で、顔色一つ変えずにいる奥様は只者ではない。この園長の魅力を十分引出し、楽しんでいるのは実はこの奥方か。恐るべし!! ピノキオ 恐るべし!! 夫婦